

基本情報						
教科・科目	数学1	・授業で使用するもの 教科書：高等学校 数学 I 問題集：4プロセス I +A、チャート式 基礎からの数学 I +A Study-Upノート I +A				
担当者	中村(発展)・齊藤(標準①・標準②)					
評価割合(試験：試験外)	試験：6 試験外：4	試験外評価は、単元ごとの小テストと再テスト、授業中や家庭学習の取り組みを評価する。				
年間を通じて教科で培う力	鍛錬(知識及び技能)	関係式が作れる、命題が述べられる。平方完成や2次不等式を解くことができる。				
	理解(思考力・判断力・表現力等)	問題文からどんな数学的性質を用いればよいか、読み取ることができる。 目的に応じて、立式や式変形ができる。				
	探究・叡智(主体的に学習に取り組む態度)	間違えた問題に対して、粘り強く取り組み、解答にたどり着くことができる。 自分が理解できていない内容を分析して、解決できるまで取り組むことができる。				
学習情報						
月	回	単元名	単元目標(到達状態)	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4 5	7	式の計算	・3次式の展開や因数分解ができるようになる。 ・式の形に合わせて、展開や因数分解の公式を利用できる。 ・授業プリントに他の人の解法やアイデアを記録することができる。	・分配法則を用いて、展開や因数分解の公式を導出する。 ・2次式の展開・因数分解の公式を振り返りながら、展開や因数分解を工夫して行う方法を考える。 ・クラスメイトの計算方法を共有し合う。	・講義 ・演習 ・グループワーク	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
5	10	実数 1次不等式	・不等式や絶対値の意味を理解する。 ・循環小数や根号を含む式を既約分数で表すことができる。	・絶対値や不等式が表す部分を、数直線上で表現する。 ・循環小数を文字で置いて、循環小数が出ない形に変形する。	・講義 ・演習 ・グループワーク	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
6	定期試験① 令和8年 6月3日ー6月5日					
6	6	不等式の応用	・連立不等式や絶対値を含む不等式を解くことができる。 ・誤った不等式の解に対して、不等号の向きや表す領域を見直すことで解答を修正できる。	・不等式を解く問題に対して、誤った解答を提示し、誤っている理由を考える。 ・連立不等式や絶対値を含む不等式が表す部分を数直線上で表現する。	・講義 ・演習 ・グループワーク	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
6 7	9	2次関数とそのグラフ	・2次関数を平方完成することができる。 ・2次関数のグラフを書くことができる。 ・2次関数のグラフから、2次関数の係数の符号を判断することができる。	・2次関数のグラフをプロットする。 ・2次関数のグラフを正確にかく。	・講義 ・演習 ・グループワーク	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
7	定期試験② 令和8年 7月15日ー7月17日					
9	12	2次関数の最大値と最小値	・2次関数のグラフを書くことができる。 ・2次関数の最大値と最小値の考え方を理解する。	・2次関数グラフを利用したの最大値と最小値を求める。	・講義 ・演習 ・グループワーク	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
10	定期試験③ 令和8年 10月21日ー10月23日					
10	9	2次方程式と2次不等式	・2次関数のグラフとx軸の交点を求めることができる。 ・2次関数を利用して、2次不等式を解くことができる。	・2次関数と直線の交点を求める方法を振り返り、2次方程式の解と2次関数のグラフの関係を考察する。 ・2次不等式が表す領域を図示し、2次不等式の解法を考える。	・講義 ・演習 ・グループワーク	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
11 12	5	データの散らばり	・データの散らばりに関する用語の意味を理解し、その計算式を利用することができるようになる。	・変量、偏差、分散、標準偏差、共分散の定義を確認し、実際に計算する。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
12	定期試験④ 令和8年 12月9日ー12月11日					
12 1 2	16	データの相関 データの分析を利用した問題解決 仮説検定の考え方	・データの相関関係を散布図などから読み取り、相関係数を求めることができるようになる。 ・PPDACサイクルについて理解し、問題解決に利用できるようになる。 ・仮説検定の考え方を理解し、主張の妥当性について結論付けられるようになる。	・相関係数の計算式とその意味を考え、2つの変量の相関関係や因果関係を調べる。 ・目的に応じて、整理したデータをもとに図やグラフを作成したり特徴や傾向を見出したりすることで分析結果から結論を導き出す。 ・有意水準を設定し、その主張が正しいかを計算によって判断する。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
3	定期試験⑤ 令和9年 3月4日ー3月6日					